

# DEBUT 首長

徳島県小松島市長 浜田 保徳氏



はまだ・やすのり 1957年徳島県美馬市生まれ。78年徳島県立農業大学校卒。95年菌床しいたけ栽培を手掛ける浜田農園社長。2007年同会長、小松島市議会議員。13年小松島市長初当選。月1回の2男2女、孫たちとの食事が楽しみ。55歳。

## 行革継続、3年で職員30人減 自主防災の組織率100%へ

**小松島市** 徳島市の南に位置し、人口4万人。紀伊水道に面した天然の良港で古くから栄えた。特産品は竹ちくわなど。

### ——財政健全化の展望は。

8年前、当市の財政状態は、国の管理下で赤字解消に取り組む財政再建団体に陥る恐れがあるほど危機的だった。稲田米昭前市長が市職員削減などの財政再建を進め、市議会も定員削減で協力した。これらが奏功し、2011年度に累積赤字を解消した。

今後も行政改革の手綱は緩めない。現在420人の職員数を3年後をめどに390人に削減するなど定員管理の適正化を進める。1～2年のうちに公立保育園の民間委託、3～5年後をめどとする幼稚園の統合も推進する。現在11校の小学校も5～6校に統合する方向で、中学校は現在の3校を16年度に2校にする。当市は規模の割に様々は事業を抱えており、市営バスや競輪事業の見直しも課題だ。

### ——緊急課題の防災対策は どうするのか。

この4月に約60の防災無線

を全町内に設置する予定だ。自主防災組織の組織率を現在の75%から早期に100%へ引き上げ、避難訓練を本格的に実施していきたい。海拔表示の徹底や飲料水、防災用機材の備蓄も進める。

避難場所の確保にも取り組む。小学校や福祉関連施設を住民の避難場所として整備する。財政再建で遅れ気味だった施設の新設にも着手する計画だ。経費削減のため、年間4000万円の使用料を払っている市営グラウンドの土地を購入し、3年以内をめどに防災公園を整備したい。防災関連施設は国や県の補助も期待できる。平時にはテニス、ゲートボールなどが楽しめる憩いの場にする。公園内に昨年整備計画を中止した火葬場も設けたい。このほか防災タワーも2～3カ所で整備したい。

### ——農業・漁業の産業振興 と地域活性化は。

農業など1次産業はまずブランド力の向上がポイントだ。小松島には古くから港があり、漁業、水産加工業が盛んだ。チリメン、ワカメ、ハモなどに力を

入れていきたい。農畜産物ではキュウリ、トマト、イチゴ、シイタケ、牛肉などのブランド化を進める。生産者が販売、加工を手掛ける6次産業化も推進する。例えば現在未利用のワカメの茎などは加工食品にして売り上げを拡大したい。また無農薬・減農薬による安全・安心な農産物振興に一段と力を入れる。

かつて関西地区と結ぶ旅客船で栄えた港は、今は航路が廃止され見る影もない。ただ、ウッドデッキが整備されていたり、年2回、大型客船「飛鳥Ⅱ」「にっぽん丸」が寄港したりするので、これらを活用したい。今後は花火大会、海鮮朝市などのイベント強化やご当地グルメの開発により、港を軸にしたにぎわい作りに力を入れ、中心商店街の活性化につなげる。経営者としての経験を生かし、選択と集中、スピード感のある行政運営を心がけたい。

(聞き手は

徳島支局 上原 吉博)